

# カトリック八尾教会ニュース



## 2022年8月 Tháng tám

### 【今月の予定】

### ミサの時間

### 日本カトリック平和旬間

6日(土) 主の変容～15日(日)	-----	①グループ (A地区+ベトナム1)
7日(日) 年間第19主日	9:00	②グループ (B地区+ベトナム2)
14日(日) 年間第20主日	9:00	③グループ (C地区+ベトナム3)
合同追悼式	11:00	①グループ (A地区+ベトナム1)
15日(月・祭) 聖母の被昇天	10:00	①グループ (A地区+ベトナム1)
合同追悼式		
21日(日) 年間第21主日	11:00	①グループ (A地区+ベトナム1)
ベトナム語のミサ	15:00	
28日(日) 年間第22主日	9:00	③グループ (C地区+ベトナム3)
	11:00	②グループ (B地区+ベトナム2)

### 合同追悼式について。

8月14日(日)、15日(日)ミサ後

#### 合同追悼者名簿:

事前に亡くなられた方の名前を所定の用紙に記入して、追悼者名簿箱にお入れください。  
 献金は任意とし、封筒に入れず名簿と共に箱にお入れください。  
 合同追悼式はミサに引き続いて、聖堂にて行います。

(典礼委員会)



### \*からし種:『聖母被昇天』とは?

マリアが靈魂も肉体もともに天に上げられたという教義で、1950年11月1日に、教皇ピオ十二世(在位1939~1958)が全世界に向かって、処女聖マリアの被昇天の教義を莊嚴に公布しました。・・・略。



これは「おめでとう、恵まれたかた」(ルカ1・28)と神の使いからのあいさつを受け、神がともにおられるという恵みに満ちたものであるが故に、その生涯においてキリストと最も深く結ばれ、死後においてもキリストの復活と栄光にあずかっていることを意味します。つまりマリアは復活の恵みを受け、キリストを通しての神における人間の完成に到達したことを確信をもって宣言しているのです。聖母の被昇天への信仰は、マリアだけが特別な存在だとい言表すものではありません。キリストによる救いにあずかる人たちの象徴として、信じるすべての人たちの救いへの希望を表現するものです。ミサの集会祈願はこのことを教えます。「全能永遠の神よ、あなたは、御ひとり子の母、けがれのないおとめマリアを、からだも魂も、ともに天の栄光に上げられました。信じる民がいつも天の国を求め、聖母とともに永遠の喜びに入ることができるよう」。

(中央協議会ホームページより)

しゃいかつどういんかい  
■社会活動委員会より

◎ウクライナ難民支援：ポーランドに避難されているウクライナの方へ今こそわたしたちの思いを託しませんか？

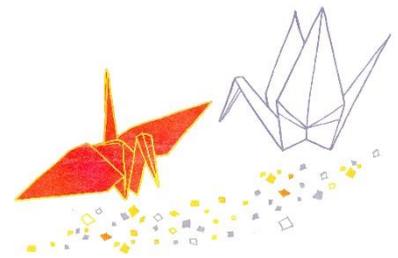
ポーランド在住の日本語学校校長、兵頭先生(上田神父様ご友人)の呼びかけにより、ポーランドに避難されているウクライナの方へ食料品などの支援募金を行っています。一日も早い、戦争の終結を祈り共に支援のご協力をお願いします！



◎釜ヶ崎炊出しの支援再開：南地区で支援してきた「釜ヶ崎の勝ち取る会」より支援再会が決まり募金の要請がありましたので、ご協力をお願いします。

◎平和旬間の行事：平和旬間（8/6～8/15）の取り組みとして

- ①平和へのメッセージを書いた折り鶴の作製。
- ②平和の源は傾聴する力ー「技能実習制度について学ぶ」を予定しています。参加、ご協力をお願いします。



■2022年7月24日の第2回「祖父母と高齢者のための世界祈願日」のための祈り

主よ、長寿の恵みを感謝いたします

あなたは、ご自分により頼む者に、いつも豊かな実りをもたらしてください。

主よ、あきらめ、希望を失ったことをおゆるしてください。

しかし、わたしの力が衰えるときも、わたしを見捨てないでください。

あなたがわたしに与えてくださる未来に、そして、わたしに託してくださる使命に、

希望のうちに心 を向けることを教えてください。

あなたへの賛美の歌を終わりになく歌うことができますように。

孫たちと、あなたに助けを求めるすべてのか弱い子どもたちを、愛をもって守るために、

わたしをあなたの「優しさの変革」を実現する熟練した職人にしてください。

主よ、世界を孤独から救うために、教皇フランシスコを支え、あなたの教会をお守りください。

わたしたちの歩みを平和の道へと導いてください。

アーメン。

(カトリック中央協議会事務局訳)

ふほう  
■訃報

大阪教区司祭 ベネディクトラブレ生藤達男神父様(97歳) 7月11日 仁豊野ヴィラにて  
帰天されました。1995～2002年、八尾教会とかわちブロックで司牧していただきました。  
永遠の安息のため、どうぞお祈りください。

『靈性 (spirituality) (1)』

チェ ジュヨン しんぶ  
崔 周永 神父

はい、と純粋に、素直に言えること。誰に？ 神様に、そして人々に！

最近、自転車にハマっている。自転車で走っていると色んなことが見えてくる。午後5時、仕事が終わりと、部屋に戻ってお茶を淹れる。疲れ切っている体に、乾いている体に香りほのかなお茶で一日の慰めを与える。取り合えず、横になりたい気持ちを抑えきって、儀式のようにお茶をすする。もし、自分に霊性というものがあるとしたら、その成長は繰り返すによるものだと思う。昨日も、今日も、そして来る日も、飽きずに、諦めずに淡々とやり続けること、これこそ、霊性を深めることであり、心の筋肉を養うことなのだ。

自転車に乗るための準備はごく簡単だ。下着も、パンツも、ジャージもサイクル用に替えてヘルメットを被り、手袋をはめる。真っ赤な上下に、ソックスも真っ赤！それに赤い自転車。自分の中で燃えている、おぼろげに分かっていた、内面のエネルギーが、神様から与えられた命の発現が、猛烈な勢いで現われるのだろう。玉造の司教館を出て、大阪城公園を一周し、長堀通りを走って、心齋橋筋を走る。車道では思いっきり速度を出し、歩道を走る時はゆっくりのんびり走らせる。サドルの上で、ペダルを漕いでいる間、自転車は進む。絶えずバランスを保ち、体はリズムに乗り、心はすっきり単純になっていく。夜7時過ぎ、人々は帰宅を急いでいるか、夜遊びを探したりする時間、自転車の上で人々を眺める。世の中を観察する。日が暮れ、昼の間抑えられていた人間の欲望が剥き出しになる夜。神様に会わない限り、人間はいつも彷徨うのだと自分に言い聞かせながらペダルを回す。大阪の美しい夜景に、それぞれ行く道を勤しむ人々。彼らが行くべき目的地に無事に着くように！

玉造への帰りは全速で車道を走る。上本町についてまた歩道でゆっくり足を休める。難波宮跡を右に回り、司教館に帰る。足に、腕に気持ちのいい感覚が走る。生きている感覚だ。

はい、と答えること。ケチずに、神様に、人々に自分を全部与えること。それは、途轍もない、大きなお恵みへの入り口！自転車で走ること、その楽しさにとことんハマり、極みの幸せを味わっている近頃、その発端は、勿論、ケチずに、はい、と答えたためだ。八尾教会の主任になってくれないかとの大司教様の呼び掛けに、確かに仕事は増えることを分かりながら、はい、と喜んで自分を与えたこと。

八尾と玉造を自転車で走り、ミニベロでは物足りなさを感じ、サイクルに乗り換えては、毎日自転車で体を鍛えるようになり、心も落ち着かせる。自転車の単純さに、素直さに、美しさにどんどんはまっていく。自分の中にあるものに、サドルの上でペダルを漕ぎながら出会うと同時に人々を見る。神様を見る。思いっきり速度を出したり、のろのろと歩道で走り遊ぶ。

緊張とリラックス。体と心が入り組んで乗る。明日が頼もしくなる。自転車に乗れるから。より健康な体になるから。自分がよりよく見えるようになるから。

そして、かかってくる色んな招きに、はい、と言えるようになるから！

